

情報・システム研究機構 本部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル2階
TEL:03-6402-6200 <https://www.rois.ac.jp/>



国立極地研究所

〒190-8518 東京都立川市緑町10-3
TEL:042-512-0608 <https://www.nipr.ac.jp/>



国立情報学研究所

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター
TEL:03-4212-2000 <https://www.nii.ac.jp/>



統計数理研究所

〒190-8562 東京都立川市緑町10-3
TEL:050-5533-8500 <https://www.ism.ac.jp/>



国立遺伝学研究所

〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
TEL:055-981-6707 <https://www.nig.ac.jp/>



データサイエンス共同利用基盤施設

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
TEL:042-512-9254 <https://ds.rois.ac.jp/>



大学共同利用機関法人

情報・システム研究機構

Inter-University
Research Institute Corporation
Research Organization of
Information and Systems

2021 - 2022

国立極地研究所
National Institute of Polar Research

国立情報学研究所
National Institute of Informatics

統計数理研究所
The Institute of Statistical Mathematics

国立遺伝学研究所
National Institute of Genetics

データサイエンス共同利用基盤施設
Joint Support Center for Data Science Research



情報時代の新しい研究を拓き 現代社会の課題解決に貢献 します

大学等との連携・協働、そして発展へ――

2019年以降世界各地でパンデミックが起こった新型コロナウイルス感染症は未だに収束の行方が見えません。このような世界規模での課題をはじめとして、現代社会は生命、地球、自然環境、人間社会など多方面における不可避なリスクの存在が指摘される不確実性の高い社会であり、私達はそうした変革の時代をまさに目の当たりにしています。

また、近年の情報通信技術の急速かつ飛躍的な発展や、多様なビッグデータの出現、計算性能の急激な向上は、社会を変容させるとともに研究環境を大きく変化させています。こうした現代社会において、第4の科学ともいわれるデータサイエンスの推進こそが、これからの科学技術イノベーションを牽引するといっても過言ではないと私たちは考えています。

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構(ROIS)は、歴史ある4つの研究所——国立極地研究所(NIPR)、国立情報学研究所(NII)、統計数理研究所(ISM)、国立遺伝学研究所(NIG)——に加え、2016年度に設置した「データサイエンス共同利用基盤施設(ROIS-DS)」から構成され、情報とシステムの視点から新たな研究領域を切り拓き、データサイエンスを発展させることを通じて、現代の諸問題の解決を目指し活動しています。

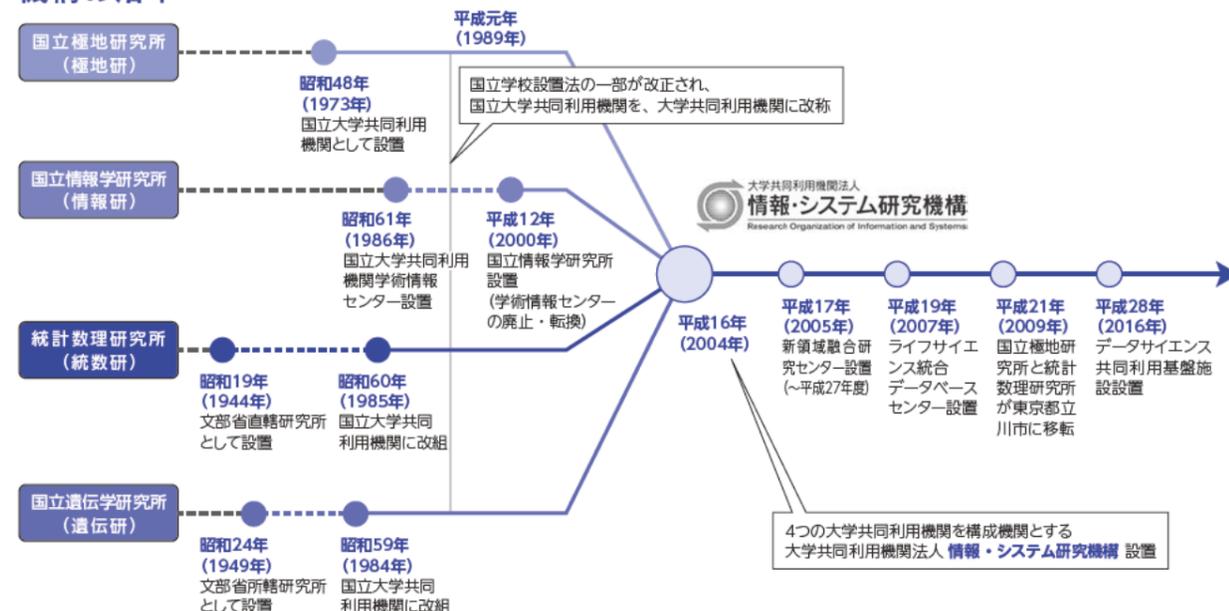
全国の研究者コミュニティからの要請に応える共同利用・共同研究を通じ、大学等における研究の発展に貢献することを第一の使命とするとともに、産業界や自治体との連携に加え、社会への学術の啓発普及にも寄与できるよう、研究成果であるデータの公開や共有を行うオープンサイエンスの活動を積極的に推進してまいります。



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

機構長 藤井 良一

機構の沿革



❖ 情報・システム研究機構とは

当機構は、極域科学、情報学、統計数理科学、遺伝学における国際水準の総合研究を推進する中核的研究機関で構成され、21世紀の重要な課題である生命、地球、自然環境、人間社会など複雑な現象に関する問題を「情報」と「システム」という視点から捉え直すことによって、分野の枠を越えて融合的な研究を行い、その解決を目指しています。国立極地研究所(極地研)と国立遺伝学研究所(遺伝研)が推進する「領域研究」と、国立情報学研究所(情報研)と統計数理研究所(統数研)が推進する「情報基盤・方法論研究」との2軸構造を持つ当機構の強みを生かし、既存の研究領域の枠組みを超えた異分野融合研究を推進してきました。これらの活動を一層加速させるため、2016度にはデータサイエンスを推進することを目的として、データサイエンス共同利用基盤施設(DS施設)を新たに設置しました。当機構はデータサイエンスの観点から特定の研究者コミュニティの枠を超え、多様な分野の研究者を支援します。

❖ 大学共同利用機関とは

大学共同利用機関は、各研究分野における「全大学の共同利用の研究所」として、個別の大学では整備・維持が困難な最先端の大型装置や大量の学術データ、貴重な資料や分析法等を全国の研究者に無償で提供し、個々の大学の枠を越えた共同研究を推進する我が国独自の研究機関です。大学共同利用機関は、2004年に国立大学法人法に基づき4つの独立した大学共同利用機関法人の下に再編され、自立的な環境の下で運営を活性化するとともに、共同利用・共同研究機能の向上や新たな

学問領域の創成に向けた戦略的な取り組みを推進することになりました。

現在、人間文化研究機構、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構の4法人によって17の大学共同利用機関が運営されています。

❖ 人材育成の取り組み

当機構は、未来の科学を牽引する次世代の研究者育成にも取り組んでいます。主な活動として、国立大学法人総合研究大学院大学(総研大)の専攻を構成する基盤機関として、当機構の最先端の研究環境を活かし、研究と教育を一体化させることにより、研究所の教員の多くが参画して大学院教育を実施しています。

また、特別共同利用研究員制度や連携大学院生の受け入れ、研究者交流促進プログラム等、研究者や他大学の大学院生を受け入れて育成するための制度を整えています。

2021年6月には文部科学省の「統計エキスパート人材育成プロジェクト」に当機構の統数研が中核機関となるコンソーシアムに採択され、今後5年間にわたり大学統計教員および統計エキスパートの育成に取り組んでいきます。

❖ 大学共同利用機関法人、総研大の連携

4つの大学共同利用機関法人では、異分野融合・新分野創成に係る事業やIR、情報発信などにおいて連携した取り組みを企画・実施しています。さらに大学院教育を充実させることに加え、これまで以上に連携を深める観点から、総研大を加えた5法人で構成される一般社団法人の設立準備を進めています。

我が国の学術機関の中核的研究拠点として



学理を究め、最先端の研究を推進する研究所・施設

極域科学、情報学、統計数理学、遺伝学それぞれの分野をリードする各研究所・施設をご紹介します。



国立極地研究所

National Institute of Polar Research

日本の極域科学研究と 極地観測の中核機関

地球を知る鍵となる場所、それが南極と北極です。両極域は地球環境の変化に敏感に反応し、またその変化は人類の将来にも大きな影響を与えます。極地研では、宇宙科学、大気・海洋・雪氷科学、固体地球科学、生命科学などを基礎として、極域でのフィールド調査から、様々な自然現象を支配する普遍的な原理や法則の探究、地球環境変動や地球惑星システムに果たす極域の役割の解明などを進めています。また、南極と北極に観測基地を持ち、南極地域観測事業と北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) では実施中核機関を務めています。



東南極のトッテン氷河末端。この氷河を融かす暖かい海水がどのように運ばれてくるかが明らかになった

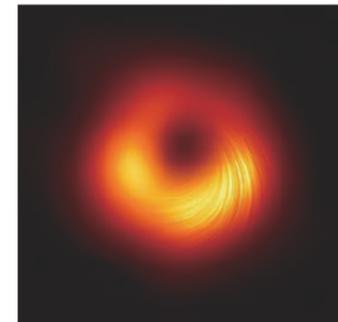


統計数理学研究所

The Institute of Statistical Mathematics

統計数理学の総合研究と 統計人材の育成

大規模・複雑なデータに基づく統計数理学の中核的研究機関として、先端的な基幹研究を推進し、横断型の研究分野である特性を活かし、ネットワーク型の共同研究により、リスク、シミュレーション、調査科学、統計的機械学習、マテリアルインフォマティクス、医療健康データ科学、環境資源データ科学などの研究成果を社会に還元していきます。また、様々なレベルの統計思考に係る人材育成プログラムを展開すると同時に、我が国で急速に求められている統計エキスパート人材の育成にも注力しています。



M87ブラックホールごく近傍の磁場の画像化の成功：画像化で統計的手法を活用したもの ©EHTプロジェクト

NII 国立情報学研究所

National Institute of Informatics

情報から知を紡ぎだし 未来価値を創成する

情報学という新しい分野での「未来価値創成」を使命とする国内唯一の学術総合研究所として、基礎論から人工知能、ビッグデータ、IoT (Internet of Things)、情報セキュリティといった最先端のテーマまで幅広い研究を推進しています。また、学術情報ネットワーク「SINET」等の構築・運用、学術コンテンツ事業の展開を推進するとともに、オープンサイエンス研究データ基盤や大学間連携に基づく情報セキュリティ体制基盤を構築しています。さらに国内外の大学や研究機関、民間企業等との連携・協力も重視した運営を行っています。



大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関DXシンポ」を継続的に開催



国立遺伝学研究所

National Institute of Genetics

すべての生命は 遺伝情報が基盤となる

遺伝情報は生命の源であり、次世代へ受け継ぎながら変化していきます。この遺伝情報という切り口から生命の謎に挑戦するのが遺伝学です。遺伝研は、細胞機能、発生・分化、進化・多様性、ゲノム・生命情報などについて最先端の研究をおこなうと同時に、生命科学の新たな研究分野の開拓に挑戦しています。さらに、大学共同利用機関としてゲノム解読/生命情報データベース/バイオリソース事業を展開することで生命科学に関わる学術・産業コミュニティに遺伝学の先端的な共同利用・共同研究の場を提供しています。



新型コロナウイルスの全ゲノム解析実施に関する覚書を静岡県と締結

学理を究め、最先端の研究を推進する研究所・施設

極域科学、情報学、統計数理科学、遺伝学それぞれの分野をリードする各研究所・施設をご紹介します。

多様なニーズの高度化に応える共同利用・共同研究

社会的課題への取り組みや特徴的な研究活動をピックアップして紹介します。

データサイエンス共同利用基盤施設

Joint Support-Center for Data Science Research

データサイエンスによる 知の開拓

データサイエンス（データ駆動型研究）を合い言葉に、大学等との連携・協働の一層の強化を目的に、それまでの大学共同利用機関にはない新しいタイプの研究施設として2016年度に情報・システム研究機構に設置された研究組織です。DS施設では、ROISを構成する4つの研究所や、他の大学共同利用機関法人の研究所等と協力して活動しており、データ共有支援事業及びデータ解析支援事業、人材育成事業、公募型共同研究等を行い、科学の発展や社会のイノベーションの推進を支援しています。



江戸をみせたい人が公開し、江戸をみたい人が活用する、新しいタイプのデータポータル「edomi」<http://codh.rois.ac.jp/edomi/>

NII COVID-19 研究データへの 迅速なアクセス環境

COVID-19の流行と求められる日本の研究データ

2020年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い、研究データ共有の重要性が高まりつつありました。欧州では早くからCOVID-19の研究データに関するポータルサイト（COVID-19 Data Portal）を、EMBL-EBIが中心となって構築しており、スウェーデンでもこの枠組みに倣って、COVID-19 Data Portal Swedenを公開していました。一方、2020年頃は日本のCOVID-19に関するポータルサイトのほとんどは市民向けの情報を集約したもので、研究者が必要とするデータは機関ごとに散在していました。

研究所共同で研究データポータルサイトを構築

そこで、情報研オープンサイエンス基盤研究センター（RCOS）でも欧州の枠組みに賛同し、遺伝研生命情報・DDBJセンターと共同で、「COVID-19データポータルJAPAN」を構築しました。本サイトでは、研究者が国内外のCOVID-19の研究情報に迅速にアクセスでき

共同利用 | ビッグデータ | 国際活動



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のオープンデータの調査収集を実施し、2020年に「COVID-19データポータルJAPAN」として公開

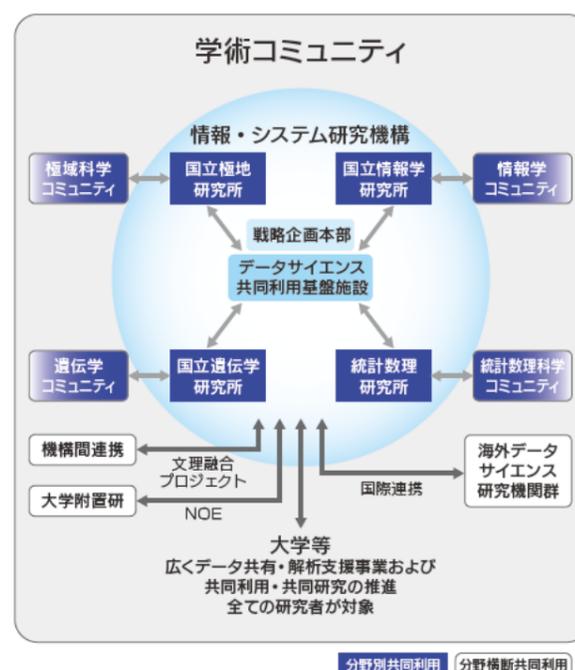
るよう、国内の研究機関と協力して適切な分類とリンク先の選定、解説の付与を実施し、2020年10月に公開を行いました。

必要な情報を迅速に共有する基盤として

本サイトは日本初の組織横断的なCOVID-19に関する研究情報のポータルサイトとして、研究者に利用されています。コロナ禍の完全な収束と将来の再流行の防止に繋げるため、引き続き国内外との連携や、情報の迅速な共有ができるよう、基盤整備を進めています。

各研究所とデータサイエンス共同利用基盤施設との関係

4つの研究所（極地研、情報研、統数研、遺伝研）とともに、組織中央に融合的な研究を推進するためのセンターを設置するという当機構の理念に基づき、法人化以前の文部科学省令で設置された大学共同利用機関ではない新しいタイプの研究組織として、DS施設を設置しています。DS施設が中心となり、他の大学共同利用機関法人の研究所等とも協力しながら、国内外の大学や研究機関等との連携や協働が一層図られるよう、その強化を目的に活動するとともに、科学の発展や社会のイノベーションへの貢献を目指しています。2021年現在、ライフサイエンス統合データベースセンター（DBCLS）、極域環境データサイエンスセンター（PEDSC）、社会データ構造化センター（CSDS）、人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）、ゲノムデータ解析支援センター（CGI）、データ同化研究支援センター（CARA）の6研究センターから構成されています。



みを (miwo) - AIくずし字認識アプリ

くずし字とAI

江戸時代に書かれた本（古典籍）はくずし字で書かれていますが、現代の日本人でくずし字がきちんと読める人は、わずか数千人程度とされています。多くの人々がくずし字を読めない状況で、日本に残された大量の歴史的資料を活用するには、くずし字を現代の文字に変換する翻刻作業が必要です。我々はこの作業に、AI（人工知能）を活用できないかと考えました。

AIによるくずし字認識

DS施設人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）は国文学研究資料館と共に、くずし字の字形を切り取って翻字結果とセットにした「くずし字データセット」を公開しました。また、AIによる物体検出技術を活用し、画像中に存在する文字を直接探し出して現代の文字に変換できる「KuroNet（クロネット）」くずし字認識モデルを開発しました。「くずし字データセット」は江戸時代の版本を中心としているため、これを学習したKuroNetも江戸時代の版本のくずし字認識を得意としています。

共同利用 | 共同研究 | ビッグデータ



「みを」の画面。くずし字認識結果の文字表示、書籍画像との比較スライダー、変体仮名の字母表示、認識結果のテキスト表示、認識結果の保存と読み出しなど、多様な機能を備えている



誰もがくずし字を読める世界に

さらに、このくずし字認識を誰もが気軽に使えるよう、情報研とAIくずし字認識アプリ「みを (miwo)」を開発し、Android版とiOS版のアプリを無料で公開しました。「みを」は「源氏物語」第14帖「みをつくし」にちなんだ名前です。「みをつくし」が人々の水先案内となるように、くずし字資料の海を旅する案内となることを目指しています。

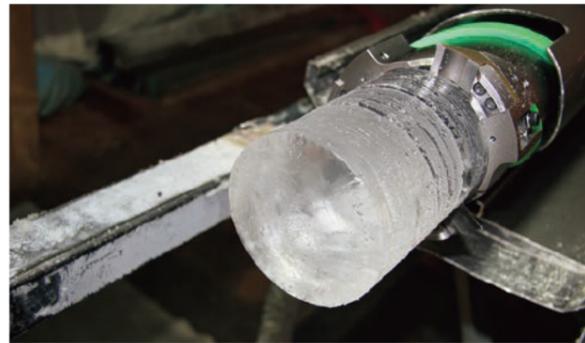
多様なニーズの高度化に応える共同利用・共同研究

最先端の学術基盤や国際連携に基づき、全国の大学や研究機関等の研究・教育を支援するプログラムを提供しています。

極地研

❖ 極域科学の試料解析等施設

アイスコア掘削機の貸出や掘削協力、南極ドームふじアイスコアの共同研究(アイスコア研究センター)、二次イオン質量分析計SHRIMP等を用いた隕石・岩石・鉱物の分析や試料の提供(極域科学資源センター)、国内唯一の、大型積分球等を用いた光学機器校正(光学校正室)、極域科学大型計算機システムの利用(情報基盤センター)等を行っています。



南極のドームふじ基地で掘削されたアイスコア

共同利用 共同研究 国際活動 研究基盤



遺伝研

❖ 遺伝情報の解読・利用支援

大規模な遺伝情報の解析を支援するため「先端ゲノミクス推進センター」が最先端のシーケンシング技術と情報解析技術を駆使した共同研究を推進しています。膨大な遺伝情報のデータは、「生命情報・DDBJセンター」が我が国唯一のリポジトリとして収集・提供しています。また、生命科学系のデータ解析に適したスーパーコンピュータを提供し、毎年、全国130以上の機関が研究に利用しています。



共同利用 共同研究 ビッグデータ 受託事業



統数研

❖ スーパーコンピュータと情報資源

共同利用のための「統計科学スーパーコンピュータシステム」と「共用クラウド計算システム」を併せて、大学共同利用機関として、国内外のコミュニティが求める資源と環境を提供しています。情報資源は、我が国唯一の統計科学専門図書館として、電子媒体を含め学術誌および図書も多数揃えています。



統計科学スーパーコンピュータシステム(左)と共用クラウド計算システム(右)

共同利用 共同研究 ビッグデータ



DS施設

❖ 分野を問わない公募型共同研究

「ROIS-DS-JOINT」として全国の研究者等に広く共同利用/共同研究の機会を提供しており、年々新たな参加機関が増え、データ駆動型研究の支援範囲を順調に拡大しています。「一般共同研究」と「共同研究集会」の2種類があり、学生や企業の方も参加可能で、研究者ではない方も集会の代表者になれます。

センター名	種別	2017	2018	2019	2020	2021	累計	総計
ライフサイエンス統合データベースセンター	一般共同研究	3	7	8	7	7	32	44
	共同研究集会	4	4	4	0	0	12	33
極域環境データサイエンスセンター	一般共同研究	3	7	8	7	8	33	35
	共同研究集会	0	1	1	0	0	2	39
社会データ基盤化センター	一般共同研究	5	7	10	7	8	37	39
	共同研究集会	2	0	0	0	0	2	20
人文学オープンデータ共同利用センター	一般共同研究	2	4	3	4	4	17	20
	共同研究集会	0	3	0	0	0	3	13
ゲノムデータ解析支援センター	一般共同研究	3	1	3	2	4	13	13
	共同研究集会	0	0	0	0	0	0	25
データ門化研究支援センター(旧データ統合計算支援プロジェクト)	一般共同研究	4	4	5	6	6	25	29
	共同研究集会	2	1	1	0	0	4	157
採択件数・採択率	一般共同研究	20	30	37	33	37	157	180
	共同研究集会	8	9	6	0	0	23	95.2%
応募数	一般共同研究	21	33	37	36	39	166	189
	共同研究集会	8	9	6	0	0	23	333
参加機関数(採択時)	一般共同研究	43	72	74	66	78	333	157
うち新規機関数	一般共同研究	43	48	33	16	17	157	612
参加者数(採択時、のべ)	一般共同研究	80	129	135	123	145	612	

公募型共同研究による活動実績

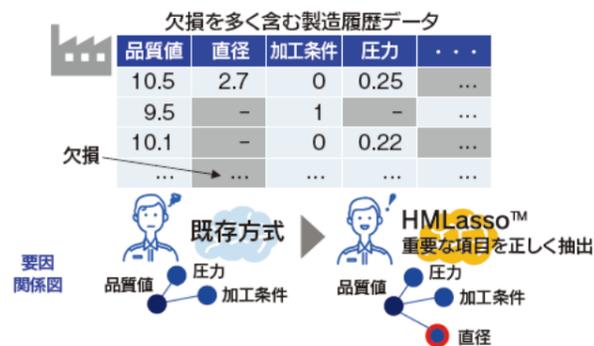
共同利用 共同研究 産学連携



統数研

❖ 株式会社東芝との共同研究

工場での製造物の品質値や加工条件、設備の温度や圧力等製造プロセスや設備稼働に関するデータが日々大量に収集・蓄積されます。それらのデータから欠損率の高低に応じて柔軟に計算する方式の回帰モデルを構築することで、品質や歩留まりが悪化する要因の特定と改善に大きく寄与するHMLasso™を開発しました。



新しい機械学習の手法HMLasso™; 大量の欠損を含むデータからも高精度の要因解析を可能化

共同利用 産学連携



遺伝研

❖ バイオリソースの開発と提供

生物遺伝資源センターでは、生命科学の研究に重要な実験生物系統の開発やその系統の解析を行います。国のナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)と連携することで、これらの系統を安定に維持するとともに、世界中の研究者へ提供しています。また、NBRPの情報センターとして系統情報のデータベースを構築・公開しています。



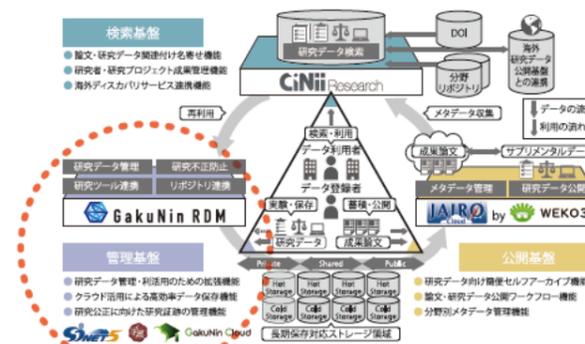
共同利用 ビッグデータ 国際活動 研究基盤



情報研

❖ 研究データ管理基盤「GakuNin RDM」

研究者がプロジェクトを効率に進めるための研究データ管理支援サービスGakuNin RDMの提供を開始しました。これはNIIが整備を進める研究データ基盤(NII Research Data Cloud)を構成する基盤の一つで、組織を越えた研究者間で迅速に研究データの管理・共有を可能とし、研究データ管理の利便性だけでなく研究コラボレーションによる創世の場となることを目指しています。



共同利用 研究基盤



極地研

❖ 北極域大型研究計画の推進

2020年6月から「北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)」を開始しました。代表機関として我が国の北極研究者を結集して、北極域に関する先進的、学際的研究を推進し、その成果を北極海氷予測情報などの発信を通じて社会に還元します。また、次世代欧州非干渉散乱レーダー(EISCAT_3D)計画への参加や北極ニーオルスン基地の運営も行っています。



北極ニーオルスン基地遠景

共同利用 共同研究 国際活動 研究基盤



公募型共同研究による他機関との研究活動の展開

当機構の研究資源や人材の提供により、新たな学術研究の発展に取り組みます。

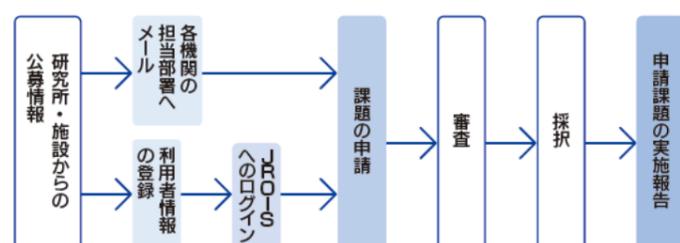
大学共同利用機関法人では、各機関それぞれの分野における先端的研究と新たな研究分野の開拓に取り組むことに加え、各大学との枠を超えた「共同利用・共同研究」の場を提供しています。

当機構では研究資源や人材を活用した4つの研究所ならびにDS施設による公募型の共同研究を推進しており、毎年2,000名以上の研究者を受け入れています。

国内外の大学や研究機関、高等専門学校、民間企業等を対象とした研究所・施設が提供する公募型共同研究に、共同利用・共同研究高度化支援システム(JROIS: Joint-Research On-line Integrated System)や各機関の公募型共同研究担当を通じて申し込みいただき、審査を経ることで、当機構の研究者と共に共同研究や研究集会を実施いただけます。

「公募型共同研究」は、研究所・施設ごとに対象や内容が異なりますので、詳細は各ウェブサイトをご確認ください。

■公募型共同研究の実施までの流れ



■共同利用・共同研究高度化支援システム JROIS



<https://jrois.rois.ac.jp/rois-dev/rois/public/ISM>

共同利用・共同研究のお問い合わせ



国立極地研究所

共同利用、公募型共同研究(一般共同研究、研究集会、共同研究育成研究員)など
https://www.nipr.ac.jp/collaborative_research/koubo.html
 お問い合わせ窓口: 研究推進課 共同利用係 電話 050-5533-8642 E-mail kyodo-nipr@t.rois.ac.jp



国立情報学研究所

共同利用、公募型共同研究(戦略研究公募型、研究企画会合公募型、自由提案公募型)など
<https://www.nii.ac.jp/research/collaboration/koubo/>
 お問い合わせ窓口: 企画課社会連携推進室 公募型共同研究担当 電話 03-4212-2139 E-mail kyoudou@nii.ac.jp



統計数理研究所

共同利用、公募型共同研究(共同利用登録、一般研究、重点型研究、共同研究集会)など
https://www.ism.ac.jp/kyodo/index_j.html
 お問い合わせ窓口: 研究推進課 共同利用係 電話 050-5533-8513 E-mail kyodo-ism@t.rois.ac.jp



国立遺伝学研究所

共同利用、公募型共同研究(共同研究、国際共同研究、研究会)など
<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/research-infrastructure-collaboration/nig-collaboration-grant>
 お問い合わせ窓口: 総務企画課 研究推進係 電話 055-981-6728 E-mail kyodo-mail@nig.ac.jp



データサイエンス共同利用基盤施設

共同利用、公募型共同研究(ROIS-DS-JOINT(一般共同研究、共同研究集会))など
<https://ds.rois.ac.jp/crp/calling/>
 お問い合わせ窓口: データサイエンス推進室 電話 042-512-9254 E-mail ds_suishin@rois.ac.jp

共同利用・共同研究に関する総合的なお問い合わせについては、当機構本部事務局までご連絡ください。

<https://www.rois.ac.jp/research/coop.html>

お問い合わせ窓口: URA ステーション 産学連携・知的財産室 電話 03-6402-6211 E-mail kenkyo@rois.ac.jp

情報発信・各種データ

当機構の活動を様々な形で社会へ発信しています。

》シンポジウム

機構本部では、年に1度、機構の役割や活動、最新の研究活動等について情報発信するシンポジウムを主催しています。また、2020年度よりROIS産学連携セミナーを開催し、データサイエンスの最新動向や具体的な活用事例等を主に企業向けに紹介しています。

》一般公開 オープンハウス

各研究所では、広く地域の皆さまや研究を志す方々に、研究の現場を公開する日を設けています。研究者による講演会等を受けて、日頃の研究活動や成果を紹介しています。

》展示室

遺伝研の遺伝学博物館展示室では、ダーウィン「種の起源」初版本をはじめ、遺伝研と生命科学の発展を表す歴史的資料を展示しています。統計数理の計算機展示室では、情報処理学会情報処理技術遺産に認定された物理乱数発生装置をはじめ、数多くの希少な機器を展示・公開しています。



遺伝学博物館展示室



統計数理計算機展示室

》サイエンスレポート

機構本部では、研究活動を分かりやすく紹介するウェブサイトサイエンスレポートを運営しています。また、機構ウェブサイトでは、研究成果等の動画や教材を紹介する公開コンテンツ100連発!を公開中です。



》南極・北極科学館

臨場感あふれるオーロラシアターや、昭和基地で活躍した雪上車、隕石の現物展示など、南極観測・北極観測について広く情報発信する、極地研に隣接した常設展示施設です。

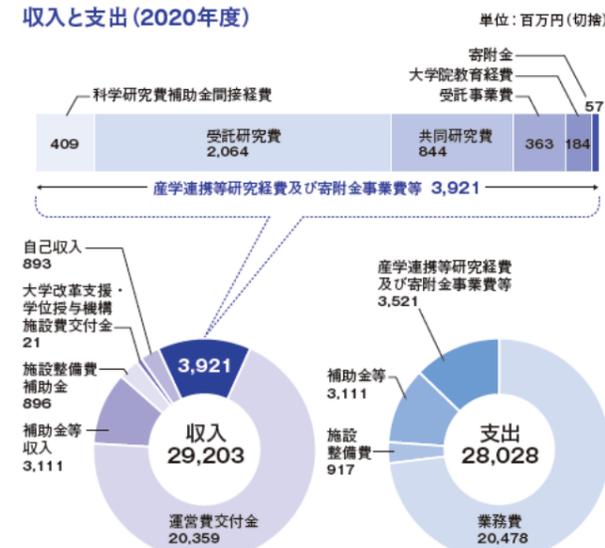


》出版物

研究成果を一般の方にも分かりやすく解説した極地研ライブラリー、情報研シリーズ、ISMシリーズを市販の書籍として出版しています。



収入と支出(2020年度)



共同研究(公募型)機関数及び共同研究員数(2020年度)

機関	機関数(件)	総数(人)	共同研究員の所属機関の内訳					
			国立大学	私立大学	大学共同利用機関	公的機関	民間企業・その他	外国機関
本部	7	8	1	2	2	0	0	3
極地研	133	721	435	76	10	133	55	12
情報研	127	430	285	79	18	14	31	3
統計数理	224	566	308	142	8	73	25	10
遺伝研	107	423	243	82	22	27	12	37
DS施設	66	123	52	24	0	23	9	15
合計	434*	2,271	1,324	405	60	270	132	80

*は重複を除いた数値

総合研究大学院大学における教育(2020年度)

研究科	専攻	基盤機関	在籍学生数(うち留学生)		学位授与数
			専攻	専攻	
複合科学研究科	極域科学専攻	極地研	20	(1)	3
	情報学専攻	情報研	99	(54)	17
	統計学専攻	統計数理	36	(2)	4
生命科学研究科	遺伝学専攻	遺伝研	37	(19)	6
	計		192	(76)	30

※在籍学生数は5月1日時点の数値